

| | |
|------------------|---|
| Title | 明治十一年民法草案の一部：第三編第二卷「生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺」 |
| Sub Title | Selected chapters of the draft civil code of Japan, 1878 |
| Author | 手塚, 豊(Tezuka, Yutaka) |
| Publisher | 慶應義塾大学法学研究会 |
| Publication year | 1954 |
| Jtitle | 法學研究：法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.27, No.4 (1954. 4) ,p.49- 80 |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 資料 |
| Genre | Journal Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19540415-0049 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

明治十一年民法草案の一部

— 第三編第二卷「生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺」 —

手塚 豊

解題

明治九年六月、司法卿大木喬任の命をうけた箕作麟祥、牟田口通照の兩名が約二カ年の歳月を費して編纂したいわゆる「明治十一年民法草案」については、すでに編纂事情及び内容に關して諸先學の研究があり、⁽¹⁾また全三編の草案の内、第一編、第二編及び第三編の一部は、星野通博士によつて覆刻もされている。しかし、第三編の第一卷第二卷は當時刊行された第三編の活字本にも後に述べるように故意に省略されているし、また稿本の存在も報告されたものがない。

明治十一年民法草案の一部

い。いわば、この部分は、十一年草案の盲點とみられるところである。先般、私は國會圖書館に保管されている箕作麟祥文書の中に、その第二卷に該當する稿本が存在するのを見出した。原本は司法省十行野紙五八枚に淨書された寫本で、朱筆で修正増補の加筆が施されているものである。「校正本・第二稿、日本民法草按・遺囑贈遺」と題し、「民法編纂之印」が捺されている。「遺囑贈遺」とあるがその内容は「生存中の贈遺」も含む第二卷全部である。十一年草案の編纂過程及び性格に關する私見は、他日稿を改めて詳しく本誌に發表する豫定であるがここには取りあはず從來全く知られていなかった第二卷の條文のみを覆刻、報告することにした。

四九 (二五三)

○
これまで知られている十一年草案の編目、條數及び起草年月日は次の通りである。

第一編 人事明治九年六月起草
年九月竣草

第一卷 民權ヲ有スル事、日本人タルノ分限ヲ失フ事六月一日
——第十六條
——六月三日

第二卷 身分證書第十七條——第六十六條
住所第六十七條——第七十六條
六月五日——六月十三日

第三卷 住所第六十七條——第七十六條
六月十四日——六月十五日

第四卷 失踪六月二十一日——六月二十八日
第七十七條——第一百八條

第五卷 婚姻六月三十日——七月十九日
第一百九條——第二百二條

第六卷 離婚七月二十二日——八月二十一日
第二百三條——第二百八十一條

第七卷 父母タル事、及ビ子タル事八月十二日——第三日
第二百八十二條——第三百十三條

十三條

第八卷 養子九月二日——九月四日
第三百十四條——第三百三十條

第九卷 父母ノ權九月五日——九月六日
第三百三十一條——第三百四十四條

第十卷 幼年ノ事、後見ノ事、後見ヲ免カル、事九月十五日
第四百四十一條——第四百四十一條

條——九月二十日

第十一卷 丁年ノ事、治産ノ禁ノ事、浪費者ノ爲メ裁判所ヨリ

任スル補佐人ノ事 第四百四十二條——第四百七十條
九月二十一日——九月二十二日

第二編 財産及び財産所有權ノ種類明治九年十月起草
年十二月竣草

第一卷 財産ノ區別 第四百七十一條——第四百九十一條
十月二十四日——十一月七日

第二卷 財産所有權 第四百九十二條——第五百十七條
十一月八日——十一月十七日

第三卷 入額所得ノ權及び定限アル入額所得ノ權 第五百十八條
——第五百六十五條
十一月二十八日

第四卷 土地ノ義務 第五百六十六條——第六百二十五條
十一月三十日——十二月十三日

第三編 財産所有權ヲ得ル方法

總則 第六百二十六條——第六百三十二條
十年一月三十一日——二月一日

第一卷 (不明)

第二卷 (不明)

第三卷 契約 第九百三十九條——第一千百六十二條
十年八月九日——十月五日

第四卷 契約ナクシテ生ズル義務 第一千百六十三條——第一千百七十九條
十月八日——十月十三日

二十九條

第五卷 婚姻ノ契約 第一千八十條——第一千二百五十九條
十月十五日——十月二十六日

第六卷 賣買 第一千二百六十條——第一千三百五十五條
十月三十一日——十一月十三日

第七卷 交換 第一千三百五十六條——第一千三百六十一條
十一月十五日

第八卷 貸貸 第一千三百六十二條——第一千四百三十一條

第九卷 會社ノ契約 第一千四百三十二條——第一千四百六十三條

第十卷 貸借 第一千四百六十四條——第一千五百一十條

第十一卷 附託及ヒ双方相爭フ物ノ附託 第一千五百一十一條——第一千五百五十二條

三百五十二條

第十二卷 偶生ノ事ニ關スル契約 第一千五百五十三條——第一千五百六十五條

二百六十五條

第十三卷 名代ノ契約 第一千五百六十六條——第一千五百九十一條

第十四卷 保證ノ契約 第一千五百九十二條——第一千六百二十三條

第十五卷 和解ノ契約 第一千六百二十四條——第一千六百三十九條

第十六卷 質入ノ契約 第一千六百三十七條——第一千六百六十條

第十七卷 先取りノ特權及ヒ不動産書入質ノ權 第一千六百六十一條——第一千七百六十一條

日——三月二十九日

第十八卷 期滿得免 第一千七百六十二條——第一千八百二十條

第一編第二編は、合せて三四八頁の洋裝刊本があり(以下、甲本)、

それには編纂委員から大木司法卿に對する明治十年九月付の獻辭がついている。第三編は、總則と第三卷第四卷を合せた一四九頁の洋裝刊本(以下、乙本)と、第五卷以下第十八卷までを含む三七六頁の

洋裝刊本(以下、丙本)とがある。乙本には甲本と同じく十一年一月付の獻辭があるが、丙本にはついていない。それがため、第五卷以下が司法卿に上呈された時期は、不明である。

星野博士が「明治民法編纂史研究」(昭和十八年)「明治十一年民法草案」(昭和十九年)等で覆刻されたのは、甲、乙の兩本であつて、丙本はまだ覆刻されたものがない。

乙本に第一卷第二卷の條文が脱落している理由は、その獻辭に「第一卷第二卷ヲ闕キ其間通計三百六條ヲ掲列セサルモノハ其第一卷第二卷ハ財産相續及ヒ贈遺ノ法則ニ係リ其現下竣稿ニ屬スル各條ノ更ニ刪改訂正ス可キモノ多キニ因ル」とある。すなわち、この獻辭によつて、(一)第一卷は財産相續、第二卷は贈遺の規定であること、(二)その條數は兩卷合せて三〇六カ條であること、(三)獻辭の書かれた明治十一年一月當時、一應成稿していたものは司法卿に上呈するまでに至らない未定稿であつたこと等の事情は、從來も判明していたのである。

本稿で覆刻したのは、その第二卷のみであるが、これによつて從來不明とされていた部分の約半分は補顧されることになる。第一卷についても一應の成案が出来上つていたことは、前掲の獻辭によつ

でも確實であり、筈作麟祥の手許には、かならず保管されていたことと思われるが、現在國會圖書館に委託されている文書の内には見當らない。

○

原本によれば、最初の第一稿と、それに修正加除を施した第二稿(校正本)と、兩案の内容が判明する。前者は全一六八カ條(第六條から第九(三)後者は全一六〇カ條(第七九條から第九三條まで)であり、最後の條數第九三八條は、乙本第三卷の條數の直前に該當する。

この點からみれば、第二稿は乙本の第二卷にそのまま該當するものと推察してよからう。すなわち乙本の獻辭に「其現下竣稿ニ屬スル」とあるは、この草案を指すものと思われる。財産相續(第一卷)⁽⁴⁾や遺贈(第二卷)の規定は、財産編の他の部分とは異なつて、わが家族制度の傳統にふかい關係を有するので、なお上呈を見合せ再検討を行つたものであらう。しかし、その後どのように「刪改訂正」が行われたのか、そしてまた訂正案が完成し司法卿に上呈されたのかどうか、これらの點は遺憾ながら判明しない。

(一) 例えば星野通著「明治民法編纂史研究」二六頁以下・「明

治十一年民法草案」(松山經專研究彙報第十一號)解題、小早川欣吾著「續明治法制叢考」二二〇頁以下等参照。

(2) 前掲「民法編纂史研究」には乙本、前掲「明治十一年民法草案」には甲、乙二本が覆刻、紹介されている。當時、星野博士は第三編第五卷以下について「残念ながらまだ見る機會を得てゐない」(明治十一年民法草案・十二頁)といわれているから、丙本は見えておられなかつたのであらう。なお、小早川教授の前掲書には丙本の目次が紹介されているが(二三頁以下)、乙本については「未見」といわれている(二七五頁・註三八のa参照)。

(3) この條數の最後は、第九九三條であるから、その後につづく乙本第三卷の第九三九條に接續しない。このことは第一編、第二編、第三編第二卷までの部分に、全九九三カ條から成る第一稿が存在したことを意味する。さらに、おそらく第三編第三卷以降についても、丙本の草案以前に第一稿が別に作られたことであらう。すなわち、甲、乙、丙本にみられるのは、第二稿であり、第一稿は別に存在したものと考えられる。そうした第一稿は、今日見ることができないが、ただ本稿によつて、第三編第二卷の第一稿だけが判明したわけである。

(4) この部分の第二稿は、第六三三條から第七七八條に至る全一四六カ條のものと推定される。

凡 例

(一) 覆刻は、なるべく原本の體裁を保つことに努めたが、印刷の便

宜から、現在通常用いない字體を若干改めたものがある。例えば「は、ト、に、得は得に、是はト、モにした。また誤字と當て字は原則としてそのまゝにし(まま)と附記したが、字體のないものは改めた。(註)とあるは、全て手塚の註記である。

(四) □の部分、朱筆で抹消したことを示す。また表紙の箇所のゴヂの部分は原本の朱書きを示す。

(五) 條文の上に印刷したフランス民法の條數あるいは若干の説明は、原本では欄外の書き入れであり、全部朱書きである。

(六) 條文行間の文字も、原本では全て朱書きである。また※は本文のその箇所に、行間文字が挿入されることを示す。

後記 覆刻紹介を許諾された箕作俊次氏及び國會圖書館の大久保利謙氏の御厚意には、ふかく感謝の意を表す。なお、筆寫の任に當られた法學部大學院學生向井健君の勞を多とする。

原本

校正本

第二稿

日本民法草按 遺囑贈遺

民法編
纂之印

明治十一年民法草案の一部

七百七十九

自第 八百二十六條

九百三十八

至第 九百十三條

(註一)

六(註二)

註 1 九百十三とあるは九百九十三の書き違いである。
註 2 この數字は、草案全體の冊數の意味である。

第二卷 生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺

第一章 總則

佛民法
第八百九十
三條

第八百二十六條 凡ソ財產ハ後ノ數條ニ記スル所ノ法則

ニ循ヒ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺トシテ之ヲ人ニ贈

與スルコトヲ得可シ

同
第八百九十
四條

第八百二十七條 生存中ノ贈遺トハ贈遺ヲ爲ス者贈遺ヲ

受クルコトヲ承諾スル者ニ其財產所有權※ヲ即時ニ轉移スル

契約ヲ云フ此契約ハ贈遺者後ニ之ヲ廢棄スルコトヲ得

ス

同
第八百九十
五條

第八百二十八條 遺囑ノ贈遺トハ贈遺ヲ爲ス者己レノ死

去シタル後ニ至リ其財產所有權※ヲ人ニ轉移ス可キノ定メヲ

爲スコトヲ云フ此贈遺ハ贈遺者後ニ之ヲ廢棄スルコト

第八百九十
六條
第八百九十
七條
第九百

八百九十八條
八百九十九條

十九條ハ例

第七百八十二條
第八百二十九條

生存中ノ贈遺ノ證書又ハ遺囑ノ贈遺ノ

證書中二人ノ行ヒ能ハサル事ヲ爲サシム可キ條件ヲ記シ又ハ法律及ヒ風儀ヲ害スル事ヲ爲サシム可キ條件ヲ記シタル時ハ其條件ヲ其證書中ニ記セサルモノト看做シテ其證書ノ效ヲ生セシム可シ

同第九百條

然レトモ其生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ノ證書ニ因リ贈遺者ノ精神悖亂シタルヲ知り得可キ時又ハ其贈遺ノ證書ト實事ノ景狀トニ因リ贈遺ヲ受クル者※其證書中ニ記スル條件ノ如ク行フニ非サレハ贈遺者其贈遺ヲ爲サ、ル可キノ意タルヲ知り得可キ時又ハ贈遺ノ名義ヲ用フルト雖モ其實有價ノ契約タルヲ知り得可キ時ハ其證書ノ效ヲ生セシム可カラス

二項新タニ編入

第二章 生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ヲ爲シ又ハ其贈遺ヲ受クルニ必要ナル能力

其贈遺ヲ受クルニ必要ナル能力

法律上ニ別段無能力者ナリト定メタル者

ノ外ハ何人ニ限ラス生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ヲ爲シ又ハ其贈遺ヲ受クルコトヲ得可シ

同第九百二條

第七百八十三條
第八百三十條

法律上ニ別段無能力者ナリト定メタル者ノ外ハ何人ニ限ラス生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ヲ爲シ又ハ其贈遺ヲ受クルコトヲ得可シ

同第九百一條

第七百八十四條
第八百三十一條

生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ヲ爲スニ

ハ精神ノ悖迷^風セサルコトヲ必要トス

同第九百三條
第九百五條

第七百八十五條
第八百三十二條

滿十六歲以下ノ幼者ハ自己ノ財産ヲ人ニ贈與スルコトヲ得ス然レトモ其幼者ノ既ニ婚姻ヲ爲シタル時ハ其父母又ハ祖父母又ハ親族會議ノ許諾ヲ得タル上ニテ※其配偶者※ニ財産ヲ贈與スルコトヲ得可シ

其婚姻ノ契約書ニ因リ得タル上ニテ※其配偶者※ニ財産ヲ贈與スルコトヲ得可シ

同第九百四條

第七百八十六條
第八百三十三條

滿十六歲ニ至リシ幼者ハ遺囑ノ贈遺ヲ爲ス^{事ヲ得スト雖モ遺囑ノ贈遺ハ之ヲ爲ス事ヲ得可シ}但シ其遺囑ノ贈遺ヲ以テ人ニ贈與スルコトヲ得可キ財産ハ丁年者ノ人ニ贈與スルコトヲ得可キ財産ノ一半ニ過ク可カラス

遺囑ノ贈遺ヲ以テ人ニ贈與スルコトヲ得可キ財産ハ丁年者ノ人ニ贈與スルコトヲ得可キ財産ノ一半ニ過ク可カラス

同第九百五條

第七百八十七條
第八百三十四條

婚姻シタル婦ハ第九百九十七條及ヒ第九百九十九條ノ法則ニ循ヒ別段夫ノ許諾ヲ得又然ラサレハ裁判所ノ許ヲ得ルニ非サレハ生存中ノ贈遺トシテ財産ヲ人ニ贈與スルコトヲ得ス然レトモ婦遺囑ノ贈遺トシテ財産ヲ人ニ贈與スルニ付テハ其夫ノ許諾及ヒ裁判所ノ許ヲ受クルコトヲ必要トセス

婚姻シタル婦ハ第九百九十七條及ヒ第九百九十九條ノ法則ニ循ヒ別段夫ノ許諾ヲ得又然ラサレハ裁判所ノ許ヲ得ルニ非サレハ生存中ノ贈遺トシテ財産ヲ人ニ贈與スルコトヲ得ス然レトモ婦遺囑ノ贈遺トシテ財産ヲ人ニ贈與スルニ付テハ其夫ノ許諾及ヒ裁判所ノ許ヲ受クルコトヲ必要トセス

婚姻シタル婦ハ第九百九十七條及ヒ第九百九十九條ノ法則ニ循ヒ別段夫ノ許諾ヲ得又然ラサレハ裁判所ノ許ヲ得ルニ非サレハ生存中ノ贈遺トシテ財産ヲ人ニ贈與スルコトヲ得ス然レトモ婦遺囑ノ贈遺トシテ財産ヲ人ニ贈與スルニ付テハ其夫ノ許諾及ヒ裁判所ノ許ヲ受クルコトヲ必要トセス

婚姻シタル婦ハ第九百九十七條及ヒ第九百九十九條ノ法則ニ循ヒ別段夫ノ許諾ヲ得又然ラサレハ裁判所ノ許ヲ得ルニ非サレハ生存中ノ贈遺トシテ財産ヲ人ニ贈與スルコトヲ得ス然レトモ婦遺囑ノ贈遺トシテ財産ヲ人ニ贈與スルニ付テハ其夫ノ許諾及ヒ裁判所ノ許ヲ受クルコトヲ必要トセス

婚姻シタル婦ハ第九百九十七條及ヒ第九百九十九條ノ法則ニ循ヒ別段夫ノ許諾ヲ得又然ラサレハ裁判所ノ許ヲ得ルニ非サレハ生存中ノ贈遺トシテ財産ヲ人ニ贈與スルコトヲ得ス然レトモ婦遺囑ノ贈遺トシテ財産ヲ人ニ贈與スルニ付テハ其夫ノ許諾及ヒ裁判所ノ許ヲ受クルコトヲ必要トセス

婚姻シタル婦ハ第九百九十七條及ヒ第九百九十九條ノ法則ニ循ヒ別段夫ノ許諾ヲ得又然ラサレハ裁判所ノ許ヲ得ルニ非サレハ生存中ノ贈遺トシテ財産ヲ人ニ贈與スルコトヲ得ス然レトモ婦遺囑ノ贈遺トシテ財産ヲ人ニ贈與スルニ付テハ其夫ノ許諾及ヒ裁判所ノ許ヲ受クルコトヲ必要トセス

同第九百六條

第(七百八十八條)八百三十五條 生存中ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得可キ爲

メニハ其贈遺ヲ爲ス時之ヲ受クル者其母ノ胎内ニアルヲ以テ足レリトス

遺囑ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得可キ爲メニハ其贈遺ヲ爲ス者ノ死去スル時之ヲ受クル者其母ノ胎内ニアルヲ以テ足レリトス

同第九百七條

第(七百八十九條)八百三十六條 幼者ノ滿十六歳ニ至リシ後ト雖モ後見

人ハ其幼者ヲ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

幼者ノ丁年ニ至リシ後ト雖モ後見人^ノ總計算書ヲ其幼者ニ渡シテ計算ヲ爲シ終リタル後ニ非サレハ^{其後見人}其幼者生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

同第九百八條

第(七百九十條)八百三十七條 不適法ノ子ハ此篇ノ第一卷第四章第一

節^ノニ其得可キ事ヲ定メタル財産ノ外生存中ノ贈遺又

同第九百九條

ハ遺囑ノ贈遺トシテ其父母ノ財産ヲ受ク可カラス第(七百九十一條)八百三十八條 醫師又ハ製藥者ハ病者ヲ診察シ其病者

ノ死去シタル時ハ其病中其死者ヨリ爲シタル生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

然レトモ其死者ノ家^ノ屋^ノト其醫師又ハ製藥者ノ勞費トニ准シ其死者ノ財産中特定ノ一部ヲ酬謝トシテ贈興スル場合ハ前項ニ記スル所ノ限ニ非ス

同第九百十條

又其死者ニ直系ノ財産相續人ナク其醫師又ハ製藥者其死者ノ第四級ニ至ル迄ノ血屬親ナル時ハ其死者ノ財産ノ全部ト雖モ之ヲ贈遺トシテ受クルコトヲ得可ク又其醫師又ハ製藥者其死者ノ直系ノ財産相續人タル時ハ其他ニ直系ノ相續人アリト雖トモ^亦其^{贈遺}遺囑ヲ受クルコトヲ得可シ

同第九百十一條

第(七百九十二條)八百三十九條 衆庶ノ裨益ノ爲メ設ケタル公舎又ハ貧

院及ヒ邑中ノ貧者ニ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ヲ以テ財産ヲ贈興スル約定ハ^官政府ノ許ヲ得タルニ非サレハ其效ナカル可シ

同第九百十二條

第(七百九十三條)八百四十條 前數條ニ記スル法則ニ循ヒ贈遺ヲ受クル

コトヲ得サル者ニ財産ヲ贈與スル約定ハ有償ノ^{契約}約定ノ體裁ニテ之ヲ爲シ又ハ介入者ノ名義ヲ假リ之ヲ爲スト雖モ其效ナカル可シ但シ其贈遺ヲ受クルコトヲ得サル者ノ父母子卑屬親配偶者ハ之ヲ介入者ト看做ス可シ

第三章 贈遺ト爲スヲ得可キ財産ノ定分及ヒ贈遺ト爲シタル財産ヲ減スル事

第一節 贈遺ト爲スヲ得可キ財産ノ定分

第九百十三條 (七百九十四條) 贈遺ヲ爲ス者ニ適法ノ子一人アル時ハ其財産ノ一半ヲ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺トシテ人ニ贈與スルコトヲ得可ク又適法ノ子二人アル時ハ其三分ノ一ヲ贈與スルコトヲ得可ク又適法ノ子三人以上アル時ハ其四分ノ一ヲ贈與スルコトヲ得可シ

第九百十四條 (七百九十五條) 適法ノ子卑屬親ヲ遺留シテ死去シタル時ニ於テモ其卑屬親ノ數如何ヲ問ハス其適法ノ子ノ數ニ從ヒ贈遺ト爲スヲ得可キ財産ノ定分ヲ算定ス可シ

第九百十五條 (七百九十六條) 死者ニ子及ヒ卑屬親ナクシテ父母アル時ハ其財産ノ一半ヲ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺トシテ人ニ贈與スルコトヲ得可ク又其父又ハ母ノミアル時

第九百十五條 (七百九十七條) 尊屬親ノ爲メニ貯留シ置ク可キ財産ハ其尊屬親其死者ノ財産相續ヲ爲ス可キ順序ニ循テ之ヲ取得ト爲ス可シ但シ其尊屬親死者ノ財産ヲ相續スルニ當リ其尊屬親ノ權ト傍系親ノ權ト相觸レ其尊屬親ノ相續ス可キ財産ノ部分ノ價ノ其貯留財産ノ價ニ及ハサル時ハ其尊屬親其相續ス可キ財産ノ部分ヲ取得ト爲サス

其貯留財産ヲ取得ト爲スコトヲ得可ク若シ其貯留財産ノ價ノ其相續ス可キ財産ノ部分ノ價ニ及ハサル時ハ其尊屬親其貯留財産ヲ取得ト爲サス其相續ス可キ財産ノ部分ヲ取得ト爲スコトヲ得可シ

第九百十五條 (七百九十八條) 死者ニ卑屬親アル時ハ其尊屬親ハ貯留財産ヲ得ルノ權ナシ然レトモ其卑屬親ノ皆其死者ノ財

新タニ編入
ムイロン氏
民法理論卷
ノ三第六百
六節ニ據ル

産相續ヲ抛棄シタル時ハ其尊屬親ニ貯留財産ヲ得ルノ權アリトス

條第九百十六
第(七百九十九條) 尊屬親及ヒ卑屬親ノ共ニアラサル時ハ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺トシテ財産ノ全部ヲ人ニ贈與スルコトヲ得可シ

新タニ編入
第(八百條) 尊屬親又ハ卑屬親死者ノ財産相續ヲ抛棄シタル時ハ貯留財産ヲ得^ル可キノ權ナシ

條第九百十七
第(八百四十八條) 入額所得ノ權利又ハ畢生間ノ年金ヲ得ルノ權利ヲ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺トシテ贈與シ其權利ノ價ヒ死者ノ贈遺ト爲スコトヲ得可キ財産定分ノ價ニ過キタル時ハ貯留財産ヲ得^ル可キノ權アル財産相續人ハ其贈遺ヲ施行スル歟然ラサレハ死者ノ贈遺ト爲スコトヲ得可キ財産定分ノ所有權ヲ^其受贈者ニ委附ス可シ

同第九百十八
條第九百十九
第(八百四十九條) 贈遺ト爲スコトヲ得可キ財産定分ノ全部又ハ一部ハ其所有者ヨリ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺トシテ已レノ子又ハ其他ノ財産相續人ニモ贈與スルコトヲ得可シ

但シ其贈遺ヲ爲ス者其贈遺ヲ受クル子又ハ其他ノ財産相續人ノ後ニ之ヲ返還スルニ及ハサル旨ヲ特定メ置キタル時ハ其贈遺ヲ爲シタル者ノ財産相續ヲ爲ス時ニ至リ其贈遺ヲ受ケシ子又ハ其他ノ財産相續人ヨリ其贈遺物ヲ遺留財産^(主)合部中ニ返還スルニ及ハス財産相續人中ノ一人ニ財産ヲ贈與シ後ニ之ヲ遺留財産合部中ニ返還スルニ及ハサルノ定メハ之ヲ其贈遺ノ證書中ニ附記シ又ハ別段ノ證書ニ之ヲ記ス可シ但シ其別段ノ證書ヲ記スル法則ハ生存中ノ贈遺又ハ遺囑贈遺ノ證書ヲ記スル法則ト相同シカル可シ

第二款^(節) 贈遺ト爲シタル財産ヲ減スル事

同第九百二十
第(八百五十條) 死者ノ贈遺ト爲スコトヲ得可キ財産定分ニ過キタル生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ハ其財産相續ヲ始ムル時之ヲ其定分ニ減ス可シ

同第九百二十
第(八百五十一條) 法律上ニ貯留財産ヲ得可キノ權アリト定メタル財産相續人又ハ其財産相續人ノ相續人又ハ其財産相續人ノ債主ハ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ヲ減

セシムルノ權アリ然レトモ其他ノ生存中ノ贈遺又ハ遺

囑ノ贈遺ヲ受クル者又ハ死者ノ債主ハ 死者ノ爲シタル贈遺
生存中ノ贈遺

又ハ遺囑ノ贈遺ヲ減セシムルノ權ナク又其贈遺ヲ減

スルニ因リ己レニ利益ヲ得ルコトヲ得ス

同
第九百二十
二條

第八百五十二條 贈遺ト爲セシ財産ヲ減ス可キ分量ヲ定

ムルニハ先ツ其贈遺ヲ爲シタル者ノ死去ノ時ニ遺留シ

タル一切ノ財産ヲ合シ又生存中ノ贈遺ト爲シタル各財

産ヲ其贈遺ノ時ノ價ヲ以テ假ニ之ヲ遺留財産 (まほ) 合部中

ニ併合シタルモノト看做シ此諸般ノ財産中ヨリ負債

ノ額ヲ引去リ ヲ減シタル上ニテ其財産相續人ノ尊屬親又ハ卑屬親

タルト其負數トニ准シ其死者ノ贈遺ト爲スヲ得可

キ財産ノ定分ヲ計算ス可シ

同
第九百二十
三條

第八百五十三條 遺囑ノ贈遺物ヲ減シ盡シテ尙ホ不足ナ

ル時ニ非サレハ生存中ノ贈遺物ヲ減スルコトヲ得ス但

シ生存中ノ贈遺物ヲ減ス可キ時ハ其最終ノ贈遺物ヲ

(まほ) 最遺物ヲ最初ニ減ス可ク若シ最終ノ贈遺物ヲ減シ盡

シテ尙ホ不足ナル時ハ最終ヨリ第二次ノ贈遺物ヲ減シ

其他次第ニ前ニ爲シタル贈遺物ニ及ホシテ之ヲ減ス可

シ

新タニ編入

第八百七十四條 若シ生存中ノ贈遺ヲ受ケシ者自己ノ義

務ヲ盡クス可キ資金ヲ有セサルニ至リシ時ハ貯留財産

ヲ得可キ相續人其損失ヲ己レニ擔任ス可シ

同
第九百二十
四條

第八百七十五條 財産相續人中ノ一人嘗テ死者ヨリ生存

中ノ贈遺ヲ受ケ其贈遺物ヲ減ス可キ時其贈遺物ト自カ

ラ財産相續人タルニ付キ相續ス可キ財産ト同一ノ種類

ナルニ於テハ其贈遺物中ニテ自己ノ相續ス可キ財産ノ

高ニ充ル迄ヲ保チ置ケコトヲ得可シ

同
第九百二十
五條

第八百七十六條 生存中ノ贈遺ノ價ヒ死者ノ贈遺ト爲ス

ヲ得可キ財産定分ニ等シク又ハ之ニ過キタル時ハ總テ

遺囑ノ贈遺ノ效ナカル可シ

同
第九百二十
六條

第八百七十七條 遺囑ノ贈遺物ヲ減ス可キ時ハ財産全部

ノ贈遺ノ贈遺ト財産特定ノ一部ノ遺囑ノ贈遺トノ差別

ナク其贈遺ト爲セシ財産ノ割合ヲ以テ之ヲ減ス可シ

同
第九百二十
七條

第八百七十八條 然レトモ遺囑ノ贈遺ヲ爲ス者一ノ贈遺

ノ財産ヲ他ノ贈遺ノ財産ヨリモ特ニ必ス贈與セント欲

スル旨ヲ明カニ定メ置キタル時ハ其欲スル所ニ從ヒ其

別段ノ贈遺物ヲ減ス可カラズ但シ他ノ贈遺ノ財産ノ全

價ヲ以テ尙ホ財産相續人ノ爲メ貯留ス可キ財産ノ價ニ充ルニ足ラサル時ハ其別段ノ贈遺物ヲ減スルコトヲ得

可シ

同第九百二十條

第八百五十九條 生存中ノ贈遺ヲ受ケシ者其贈遺者ノ死去シタルヨリ一年内ニ贈遺物ヲ減ス可キノ求メヲ受ケル時ハ死者ノ贈遺ト爲スヲ得可キ財産定分ニ過キシ贈遺ノ財産ヨリ得タル利益中ニ付キ其贈遺者ノ死去シタルヨリ以來得タル所ノ利益ヲ返還ス可ク若シ其一年ノ期限後ニ其求メヲ受ケタル時ハ^{其求メ}之ヲ受ケシ日ヨリ以來得タル所ノ利益ヲ返還ス可シ

同第九百二十條

第八百六十條 營テ死者ヨリ贈遺トシテ受ケタル不動産ヲ其贈遺物ヲ減スルニ因リ其財産相續人ニ返還スル時ハ其贈遺ヲ受ケシ者其不動産ニ付キ負ハシメタル土地ノ義務及ヒ書入質ノ義務ヲ免除シテ之ヲ返還ス可シ

同第九百三十條

第八百六十一條 死者ノ贈遺ト爲スヲ得可キ財産定分ニ過キシ不動産ノ贈遺ヲ受ケタル者ヨリ其不動産ノ所有權ヲ人ニ轉移シタル時ハ貯留財産ヲ得可キ相續人ヨリ直チニ其不動産ノ保有者ニ對シ其不動産取戻ヲ請求ス

權ヲ人ニ轉移シタル時ハ貯留財産ヲ得可キ相續人ヨリ直チニ其不動産ノ保有者ニ對シ其不動産取戻ヲ請求ス

ルコトヲ得ス其贈遺ヲ受ケタル者ノ財産中ヨリ其不動産ノ價ニ當ル可キ價ヲ得ント^(主)請求スルコトヲ得可シ

若シ其贈遺ヲ受ケタル者ノ財産ヲ以テ其贈遺ト爲セシ

不動産ノ價ヲ償フニ足ラサル時ハ其相續人ヨリ其不動産ノ保有者^者ニ對シ其不動産ヲ取戻サント^(主)請求スルコトヲ得可シ但シ其請求ヲ爲スノ^(主)方法ト順序トハ其贈遺ヲ受ケタル者ニ對シテ爲ス所ニ同シカル可シ

第四章 生存中ノ贈遺

第一節 生存中ノ贈遺ノ法式

同第九百三十一條

第八百六十二條 生存中ノ贈遺ノ證書ハ公證人通常ノ契約書ノ法式ニ循ヒ之ヲ記シテ其正本ヲ藏シ置ク可シ若シ此事ヲ爲サル時ハ其贈遺ノ證書ノ效ナカル可シ

同第九百三十二條
同條前項ハ

第八百六十三條 贈遺ヲ受クル者ハ其贈遺ノ證書ヨリ後ニ公正ノ證書ヲ記シテ其贈遺ヲ受クルコトヲ承諾スル旨ヲ證ス可ク其正本ハ公證人之ヲ藏シ置ク可シ但シ此場合ニ於テハ其證書ノ公寫ヲ贈遺者ニ送達シタル日ヨリ後ニ非サレハ其贈遺者ニ對シテ其贈遺ノ效ヲ生ス可カラズ

同第九百三十條

第八百六十四條 (八百十七條) 生存中ノ贈遺ヲ受クル者丁年ナル時ハ

自カラ其贈遺ヲ承諾シ又ハ本人ニ代テ其贈遺ヲ承諾ス可キノ權ヲ任セラレシ名代人其承諾ヲ爲スコトヲ得可シ

此名代人ヲ任スル證書ハ公證人之ヲ記シ其證書ノ正本

ヲ贈遺ノ證書ノ正本ニ添ヘ藏シ置ク可シ若シ又贈遺ノ

證書ト贈遺ノ承諾ヲ爲ス證書ト異ナル時ハ名代人ヲ任

スル證書ノ正本ヲ其承諾ヲ爲ス證書ノ正本ニ添ヘ藏シ

置ク可シ

同第九百三十條

第八百六十五條 (百九十一條) 婚姻シタル婦ハ第九十七條及ヒ第九

十九條ノ法則ニ循ヒ夫ノ許諾ヲ得ル歟又ハ裁判所ノ

允許ヲ得ルニ非サレハ人ヨリ爲シタル生存中ノ贈遺ヲ

承諾スルコトヲ得ス

同第九百三十條

第八百六十六條 (八百十九條) 後見ヲ免レサル幼者及ヒ治産ノ禁ヲ受

ケシ者ニ爲シタル生存中ノ贈遺ハ其後見人(四百十八條)ニ

九條ノ法則ニ循フニ非サレハ之ヲ承諾スルコトヲ得ス

後見ヲ免レタル幼者ハ管財人ノ立會ニテ人ヨリ爲シタ

ル生存中ノ贈遺ヲ承諾スルコトヲ得可シ

同第九百三十條

第八百六十七條 (八百二十條) 啞聾者文字ヲ書スルコトヲ知ル時ハ自

カラ生存中ノ贈遺ヲ承諾シ又ハ名代人ヲシテ其承諾ヲ

爲サシムルコトヲ得可シ若シ啞聾者文字ヲ書スルコト

ヲ知ラサル時ハ特別管財人ヲシテ其贈遺ノ承諾ヲ爲サ

シム可シ

同第九百三十條

第八百六十八條 (八百二十一條) 家庶ノ裨益ノ爲メ設ケタル公舎又ハ貧

院及ヒ邑中ノ貧者ニ爲シタル生存中ノ贈遺ハ其公舎又

ハ貧院ノ(管理)人及ヒ邑長(官)政府ノ許ヲ得タル上ニ非サ

レハ其承諾ヲ爲ス可カラス

同第九百三十條

第八百六十九條 (八百二十二條) 生存中ノ贈遺ヲ受クル者相當ノ法式ヲ

以テ其贈遺ヲ承諾シタル上ハ其贈遺ヲ爲ス者ト之ヲ受

クル者トノ間ニ於テハ其贈遺(完了)シタルモノト爲

シ贈遺ノ財産ヲ別段引渡スニ及ハスシテ其財産所有權

ヲ贈遺ヲ受ケタル者ニ移ス可シ

同第九百三十三條

第八百二十三條 不動産ヲ生存中ノ贈遺ト爲シタル時ハ其

贈遺ト承諾トラ記シタル證書ノ公寫又贈遺ノ證書ト承諾ノ證書ト異ナル時ハ其二通ノ證書ノ公寫ヲ其不動産所在ノ地ヲ管轄スル書入質官署ノ簿冊ニ登記ス可シ但シ其登記ヲ爲サル前ハ他人ニ對シテ其贈遺ノ完全ノ生セシム可カラズ

新々二編入

第八百七十一條 贈遺ヲ受ケタル者丁年ナル時ハ自カラ

其登記ヲ求ム可ク若シ其贈遺ヲ受ケタル者其登記ヲ求メサル時ハ其債主又ハ代權人其者ニ代テ其登記ヲ求ムルコトヲ得可シ

同第九百四十一條

第八百七十二條 婦ノ人ヨリ生存中ノ贈遺ヲ受ケタル時

ハ夫ヨリ其登記ヲ求ム可シ夫其登記ヲ求メサル時ハ其婦自カラ其登記ヲ求ムルコトヲ得可シ
幼者又ハ治産ノ禁ヲ受ケシ者又ハ衆庶ノ裨益ノ爲メ設ケタル公舎又ハ貧院及ヒ邑中ノ貧者ノ他人ヨリ生存中ノ贈遺ヲ受ケタル時ハ其後見人^{管財人管理}支配人邑長其登記ヲ求ム可シ

同第九百四十一條

第八百七十三條 生存中贈遺ノ證書ノ公寫及ヒ承諾ノ證

同第九百四十二條

書ノ公寫ヲ書入質官署ノ簿冊ニ登記スルコトナキ時ハ其贈遺ノ財産ニ關係アル各人其登記アラサルニ因リ其贈遺ノ完全ノ生セシム可カラズ
ノ求メヲ爲ス可キ義務アル者又ハ其代權人又ハ贈遺ヲ爲シタル者ハ其登記アラサルニ因リ其贈遺ノ完全ノ生セシム可カラズ
旨ヲ申述スルコトヲ得ス

同第九百四十三條

第八百七十五條 生存中ノ贈遺ハ贈遺ヲ爲ス者ノ現在所有スル財産ノミニ限ル可ク若シ其贈遺ノ契約書中ニ財遺者ノ將來所有ト爲スコトアル可キ財産ヲ贈遺ス

可キ旨ヲ記シタル時ハ其將來ノ財産ニ付テハ其贈遺ノ
効ナカル可シ

同第九百四十
四條

第八百二十九條 若シ贈遺ヲ爲ス者ノ意ノミニ因テ施行

シ又ハ施行セサルコトヲ得可キ未必ノ條件ヲ定メテ生
存中ノ贈遺ヲ爲シタル時ハ其贈遺ノ効ナカル可シ

同第九百四十
五條

第八百二十七條 生存中ノ贈遺ヲ受クル者ヲシテ其贈遺

ノ時現ニ存在スル負債ニ非サル負債又ハ贈遺ノ證書及
ヒ其證書ニ附加ス可キ目錄ニ記セシ負債ニ非サル負債
ヲ償ハシム可キノ定メヲ以テ贈遺ヲ爲シタル時ハ其贈
遺ノ効ナカル可シ

同第九百四十
六條

第八百七十八條 生存中ノ贈遺ヲ爲ス者其贈遺ト爲シタ

ル財産中ノ特定ノ一部又ハ贈遺ト爲シタル財産中ノ定
數ノ金額ヲ自己ノ意ニ隨ヒ自由ニ爲ス可キノ權ヲ特ニ
保存シ置キ其權ヲ行フコトナク死去シタル時ハ如何ナ
ル約定アルヲ問ハス其特定ノ一部又ハ其定數ノ金額ニ
付テハ其贈遺ノ効ナキモノト爲シ贈遺者ノ財産相續人
之ヲ相續ス可シ

同第九百四十
七條ハ削ル

第八百七十九條 動産ノ生存中ノ贈遺ヲ爲シ未タ其動産

同第九百四十
八條

ヲ引渡サ、ル時ハ其動産ノ評價目錄ヲ記シ贈遺ヲ爲ス
者及ヒ之ヲ受クル者又ハ贈遺ヲ受クル者ニ代テ其贈遺
ヲ承諾スル者之ニ 白 姓名ヲ手署シテ印 押 ヲ押シ其評價目
録ノ正本ヲ贈遺ノ證書ノ正本ニ添ヘ藏シ置クニ非サレ
ハ其贈遺ノ効ナカル可シ

同第九百四十
九條

第八百八十條 動産又ハ不動産ノ生存中ノ贈遺ヲ爲ス者

ハ其入額所得ノ權ヲ已レニ保存シ置キ又ハ他人ノ爲メ
保存シ置クコトヲ得可シ

同第九百五十
一條

第八百八十一條 動産ノ生存中ノ贈遺ヲ爲ス者其動産ノ

入額所得ノ權ヲ已レニ保存シ置キタル時ハ贈遺ヲ受ク
ル者贈遺ヲ爲シタル者ノ入額所得ノ權ノ終リシ時ニ至
リ現存スル動産ニ付テハ其時ノ景狀ノ儘之ヲ受取り又
現存セサル動産ニ付テハ嘗テ贈遺ヲ爲シタル時ニ記シ
タル評價目錄ニ從ヒ其代價ヲ得可キコトヲ其贈遺ヲ爲
セシ者又ハ其財産ノ相續人ニ對シ求ムルノ權アリ

同第九百五十
二條

第八百八十二條 若シ生存中ノ贈遺ヲ受クル者贈遺ヲ爲

ス者ヨリ先キニ死去スル歟又ハ贈遺ヲ受クル者及ヒ其
卑屬親ノ共ニ贈遺ヲ爲ス者ヨリ先キニ死去スル時ハ其

贈遺者其贈遺シタル財産ヲ取戻ス可キノ約定ハ之ヲ爲

スコトヲ得可シ

第八百八十三條 前條ノ法則ニ循ヒ一旦贈遺セシ財産ヲ

取戻ス可キノ約定ヲ爲シタル時ハ贈遺ヲ受ケシ者ヨリ

其贈遺ノ不動産所有權ヲ他人ニ轉移シタル契約ヲ取消

シ且其不動産ニ負ハシメタル土地ノ義務及ヒ書入質ノ

義務ヲ滌除^{セシメテ}シテ其贈遺ヲ爲シタル者其不動産ヲ取戻

スコトヲ得可シ

第二^節 生存中ノ贈遺ヲ取消ス可カラサル

ノ通則外ノ法則

第八百八十四條 生存中ノ贈遺ハ贈遺ヲ受クル者其贈遺

ヲ受クルニ付キ約定シタル義務ヲ行ハサルニ因リ又ハ

恩義ヲ忘ル、ニ因リ又ハ贈遺ヲ爲ス者其贈遺ヲ爲シタ

ル後ニ子ノ生ル、ニ因リ之ヲ取消スコトヲ得可シ

第八百八十五條 結婚ノ間夫婦互ニ爲シ又ハ一方ヨリ一

方ニ爲シタル生存中ノ贈遺ハ之ヲ取消スコトヲ得可シ

第八百八十六條 贈遺ヲ受クル者贈遺ヲ受クルニ付キ約

定シタル義務ヲ行ハサルニ因リ其贈遺ヲ取消シタル時

ハ贈遺ヲ受ケタル者ノ其贈遺ノ不動産所有權ヲ他人ニ

轉移シタル契約ヲ取消シ又ハ其贈遺ノ不動産ニ付キ負

ハシメタル土地ノ義務又ハ書入質ノ義務ヲ滌除^{セシメテ}シテ

其贈遺ヲ爲シタル者其不動産ヲ取戻シ且ツ其贈遺ヲ爲

シタル者ハ贈遺ヲ受ケタル者ニ對シテ行フコトヲ得可

キ權利ヲ其贈遺ノ不動産ノ保有者ニ對シテ行フコトヲ

得可シ

第八百八十七條 生存中ノ贈遺ハ左ノ場合ニ於テハ恩義

ヲ忘レタルニ因リ之ヲ取消スコトヲ得可シ

第一 贈遺ヲ受ケシ者贈遺ヲ爲シタル者ノ生命ヲ

害シ又ハ害セント試ミ爲シタル時

第二 贈遺ヲ受ケシ者贈遺ヲ爲シタル者ニ對シ暴

行ヲ爲シ又ハ其財産及ヒ榮譽ニ至重ノ害ヲ加ヘ

タル時

第三 贈遺ヲ受ケシ者贈遺ヲ爲シタル者ニ養料ヲ

給スルコトヲ背セサル時

第八百八十八條 生存中ノ贈遺ヲ受クル者其贈遺ヲ受ク

ルニ付キ約定シタル義務ヲ行ハス又ハ恩義ヲ忘レタル

同第九百五十
二條

同第九百五十
三條

同第九百五十
六條

同第九百五十
四條

同第九百五十
五條

同第九百五十
六條

時ト雖モ當然其贈遺ヲ取消ス可カラス其贈遺ヲ爲シタル者ヨリ之ヲ裁判所ニ訟ヘ其審判ヲ受ケルコトヲ必要トス

第(八百四十二條) 恩義ヲ忘レタルニ因リ生存中ノ贈遺ヲ

同第九百五十七條

取消サントスルノ訟ハ贈遺ヲ爲シタル者其贈遺ヲ受ケタル者ヨリ害ヲ蒙リタルト云ヘル日ヨリ一年内又ハ贈遺ヲ爲シタル者其贈遺ヲ受ケタル者ノ行フタル罪犯ヲ知り得タル日ヨリ一年内ニ之ヲ爲スコシ此贈遺ノ證書ヲ取消サントスルノ訟ハ贈遺ヲ爲シタル者ヨリ贈遺ヲ受ケタル者ノ財産相續人ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得ス又贈遺ヲ爲シタル者ノ財産相續人ヨリ贈遺ヲ受ケタル者ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ贈遺ヲ爲シタル者其訟ヲ爲シ其未タ審判ヲ得サル前ニ死去シタル時又ハ贈遺ヲ爲シタル者其訟ヲ爲サスト雖モ贈遺ヲ受ケタル者ノ罪犯ヲ行フタルヨリ一年ニ至ラサル内ニ死去シタル時ハ其贈遺ヲ爲シタル者ノ財産相續人ヨリ贈遺ヲ受ケタル者ニ對シテ其訟ヲ爲スコトヲ得可シ

同第九百五十八條前項

第(八百四十三條) 生存中ノ贈遺ヲ受ケタル者ノ恩義ヲ忘レ

タルニ因リ其贈遺ヲ取消シタル時ハ贈遺ヲ受ケタル者ノ其贈遺ノ不動産所有權ヲ他人ニ轉移シタル契約ヲ取消シテ其贈遺ヲ爲シタル者其不動産ヲ取戻スコトヲ得

又其贈遺ヲ受ケタル者ノ其贈遺ノ不動産ニ付キ負ハシメタル土地ノ義務又ハ書入質ノ義務ヲ排除シテ其贈遺ヲ爲シタル者其不動産ヲ取戻スコトヲ得ス

然レトモ第(八百七十三條) 記シタル法則ニ循ヒ其贈遺ノ證書又ハ承諾ノ證書ヲ書入質官署ノ簿冊ニ登記シタル

端ニ其贈遺ヲ爲シタル者其贈遺ヲ受ケタル者ノ恩義ヲ忘レタルニ因リ其贈遺取消ノ裁判言渡ヲ得タル旨ヲ附記シタル後ニ其贈遺ヲ受ケタル者ヨリ其贈遺ノ不動産所有權ヲ人ニ轉移シ又ハ其不動産ニ付キ土地ノ義務又ハ書入質ノ義務ヲ負ハシメタル時ハ其贈遺ヲ爲シタル

者ノ求メニ因リ其不動産所有權轉移ノ契約ヲ取消シ又ハ土地ノ義務及ヒ書入質ノ義務ヲ排除ス可シ

同第九百五十八條二項

第(八百四十四條) 前條ノ第一項ノ場合ニ於テハ其贈遺取消ノ訟ヲ爲シタル時ノ不動産ノ價及ヒ其訟ノ日ヨリ以來ノ其入額ヲ其贈遺ヲ受ケタル者ヨリ其贈遺ヲ爲シタ

ル者ニ償還ス可シ

第八百九十二條 (八百四十五條) 婚姻ノ爲メナシタル生存中ノ贈遺ハ恩

義ヲ忘レタルニ因リ之ヲ取消ス可カラズ

第八百九十三條 (八百四十六條) 子及ヒ卑屬親ナキ者ノ爲シタル生存中

ノ贈遺ハ其贈遺ノ財産ノ價ト其贈遺ノ名義トノ如何ナルヲ問ハス又其贈遺ヲ相互ニ爲シ又ハ酬謝ノタメ之ヲ

爲シ又ハ婚姻ノタメ之ヲ爲シタルヲ問ハス其贈遺ヲ爲

シタル者ノ生存中又ハ其死後ニ適法ノ子ノ生レシ時又

ハ其贈遺ヲ爲シタル後ニ生レシ不適法ノ子ヲ婚姻ニ因

テ適法ノ子ト爲シタル時ハ別ニ裁判所ニ訟ヘスシテ當

然之ヲ取消ス可シ

第八百九十四條 (八百四十七條) 生存中ノ贈遺ヲ爲ス時其子既ニ母ノ胎

内ニアリシ時ト雖モ其子ノ生レタルニ因リ亦前條ニ記

スル所ノ如ク其贈遺ヲ取消ス可シ

第八百九十五條 (八百四十八條) 若シ生存中ノ贈遺ヲ爲シタル者ニ子ノ

生レシ後ニ至リ受贈者其贈遺ノ財産ノ保有ヲ得又ハ其
財産ノ保有ヲ繼續シタル時ト雖モ亦其贈遺ノ効ナカル
可シ但シ此場合ニ於テハ贈遺ヲ受ケシ者贈遺ヲ爲シタ

ル者ノ子ノ生レタル事又ハ其不適法ノ子ヲ婚姻ニ因テ

適法ノ子ト爲シタル事ノ公正ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ

後ニ其贈遺ノ財産ヨリ得タル利益ヲ返還ス可シ又其贈

遺ヲ受ケタル者其公正ノ報告ヲ得タル後ニ其贈遺ノ財

産取戻シノ訟ヲ受ケタル時ト雖モ亦其報告ノ後ニ其贈遺

ノ財産ヨリ得タル利益ヲ返還ス可シ

同第九百六十
三條

第八百九十六條 (八百四十九條) 贈遺ヲ爲シタル者ニ子ノ生レタルニ因

リ生存中ノ贈遺ノ効ヲ失フタル時ハ其贈遺ヲ受ケタル

者ノ其贈遺ノ不動産所有權ヲ他人ニ轉移シタル契約ヲ

取消シ又ハ其贈遺ヲ受ケシ者ノ其贈遺ノ不動産ニ付

キ負ハシメタル土地ノ義務又ハ書入質ノ義務ヲ滌除

セシメテ

同第九百六十
三條

第八百九十七條 (八百五十條) 贈遺ヲ爲シタル者ニ子ノ生レタルニ因

リ生存中ノ贈遺ノ効ヲ失フタル時ハ後ニ其贈遺ヲ爲シ

タル者ノ子ノ死去シ又ハ贈遺ヲ爲シタル者別段贈遺ヲ

確定ス可キ證書ヲ記シタルト雖モ其贈遺ノ効ヲ生セシ

ムルコトナカル可シ但シ其贈遺ヲ爲シタル者其贈遺ノ

一旦其効ヲ失フタルニ關セテ其財產ノ贈與セント欲

スル時ハ其子ノ生死ヲ問ハス更ニ改メテ其財産ノ贈遺ヲ爲スヲ必要トス

同第九百六十條

第八百九十八條 生存中ノ贈遺ヲ爲ス者縱令後ニ子ノ生

ル、コトアリト雖モ其贈遺ヲ取消サ、ル可キノ約定ハ全ク其效ナカル可シ

同第九百六十條

第八百九十九條 贈遺ヲ受ケタル者又ハ其財産相續人又ハ其代權人又ハ其贈遺ヲ受ケシ者ヨリ更ニ其贈遺ノ財

産ヲ得タル者ハ其財産ヲ三十年間保有シタル後ニ非サレハ贈遺ヲ爲シタル者ニ子ノ生レタルカ爲メ其贈遺ノ效ヲ失フタル財産ニ付キ期滿所得ヲ得可カラス但シ其

三十年ノ期限ハ贈遺ヲ爲シタル者ニ子ノ生レタル日ヨリ之ヲ算計ス可シ

第五章 遺囑ノ贈遺

第一節 遺囑贈遺ノ法式ニ付テノ總則

同第九百六十條

第九百條 凡ソ遺囑ノ贈遺ヲ爲スニハ其證書アルコトヲ

必要トス

同第九百六十條

第九百一條 二人以上ニテ他人ノ爲メ一通ノ證書ヲ以テ遺囑ノ贈遺ヲ爲ス可カラス又二人以上ニテ相互ニ贈遺

同第九百六十條

第九百二條 遺囑ノ贈遺ハ遺囑者自筆ノ證書又ハ公正ノ證書又ハ秘密ノ證書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得可シ

同第九百七十條

第九百三條 遺囑者自筆ノ證書ハ其遺囑者其全文^{及七}其年

同第九百七十條

其效ナカル可シ但シ其他ノ法式ハ之ヲ行フニ及ハス第九百四條 公正ノ遺囑贈遺ノ證書ハ證人二人ノ面前ニ

同第九百七十條

テ公證人二人ノ之ヲ證シ又ハ證人四人ノ面前ニテ公證一人一人ノ之ヲ證シ可シ

第九百五條 公證人二人ニテ公正ノ遺囑贈遺ノ證書ヲ證スル時ハ遺囑者其公證人二人ニ遺囑贈遺ノ文ヲ口授シ公證人中ノ一人其口授ノ如ク之ヲ筆記ス可シ

公證人一人ノミナル時モ亦其遺囑者遺囑贈遺ノ文ヲ口授シテ其公證人之ヲ筆記ス可シ此二箇中何レノ場合ニ於テモ公證人ノ記シタル遺囑贈遺ノ證書ヲ證人ノ面前ニテ其遺囑者ニ讀ミ聞カス可シ

此等ノ諸件ヲ行ヒシ事ハ別段其證書中ニ附記ス可シ

同第九百七十
三條

此遺囑贈遺ノ證書ハ公證人ノヲ預リ置ク可シ
(八百五十九條)
第九百六條 公正ノ遺囑贈遺ノ證書ハ遺囑者^{之ニ自署押}「己レ」ノ姓名ヲ手署シテ印ヲ押ス可シ若シ遺囑者^自姓名ヲ手署スルコト能ハサル旨ヲ申述スル時ハ其申述スル所ト^自手

署スルコト^ラ能ハサル原由トヲ其證書中ニ附記ス可シ

同第九百七十
四條

(八百六十條)
第九百七條 公正ノ遺囑贈遺ノ證書ノ證人ハ其證書ニ

姓名ヲ手署シ印ヲ押ス可ク若シ其證人中ニ^自姓名ヲ手

同第九百七十
五條

(八百六十一條)
第九百八條 凡ソ遺囑ノ贈遺ヲ受クル者又ハ其者ノ第四

級ニ至ル迄ノ血屬及ヒ姻屬ノ親又ハ其配偶者又ハ其證書ヲ記スル公證人ノ書記ハ公正ノ遺囑贈遺ノ證書ノ證人タルコトヲ得ス

同第九百七十
六條

(八百六十二條)
第九百九條 遺囑者秘密ノ遺囑贈遺ノ證書ヲ作ル時ハ自

カラ其證書ヲ記シタルト他人ヲシテ之ヲ記セシメタルトヲ問ハス遺囑者其證書ニ^自己ノ姓名ヲ手署シ印ヲ押ス可シ

明治十一年民法草案の一部

其遺囑贈遺ノ證書ヲ記シタル紙又封紙ヲ用ヒシ時ハ其封紙ニ封印ヲ爲ス可シ

遺囑者ハ其遺囑贈遺ノ證書ニ封印ヲ爲シタル後公證人一人ト證人四人以上トノ面前ニ之ヲ出シ又ハ其公證人^{四人}ト證人^{四人}以上トノ面前ニテ其遺囑證書ニ封印ヲ爲シタル上其書ニ記スル所ハ^{其文ト}姓名トヲ^{手記}シテ印ヲ

押シタル遺囑贈遺ノ證書タル事又ハ他人ヲシテ^{其文}ヲ記セシメ^自カラ其姓名ヲ手署シテ印ヲ押シタル遺

囑贈遺ノ證書タル事ヲ申述ス可シ然ル時公^認人ハ其申述ノ旨ヲ其證書ノ紙又ハ封紙ノ^上ニ記シ其公證人及ヒ遺囑者並ニ各證人皆^{之ニ自}姓名ヲ其上ハ書ニ手署シテ印ヲ押ス可シ

同第九百七十
七條

(八百六十三條)
第九百十條 若シ遺囑者其秘密贈遺ノ證書ヲ他人ニ記セ

シメシ時其姓名ヲ^手署スルコト能ハサルニ於テハ前條ニ記シタル證人ノ外更ニ證人一人ヲ呼ビ其證人他ノ證人ト共ニ其^認證書ノ上ハ書ニ^自姓名ヲ手署シ印ヲ押ス可シ但シ此場合ニ於テハ別段其證人ヲ呼ビシ原由ヲ其上ハ書ニ附記ス可シ

同第九百七十條

第九百七十一條 (八百六十四條) 文字ヲ讀ミ及ヒ書クコト能ハサル者ハ自筆ノ遺囑贈遺ノ證書又ハ秘密ノ遺囑贈遺ノ證書ヲ以テ

遺囑ノ贈遺ヲ爲スコトヲ得ス

同第九百七十條

第九百七十二條 (八百六十五條) 遺囑者言語ヲ發スルコト能ハスシテ文字ヲ書スルコトヲ得可キ時ハ自筆ノ遺囑贈遺ノ證書又ハ秘密ノ遺囑贈遺ノ證書ヲ以テ遺囑ノ贈遺ヲ爲スコトヲ

得可シ

其遺囑者秘密ノ遺囑贈遺ノ證書ヲ記スル時ハ其遺囑證書ノ全文ヲ手記シ且年月日及ヒ姓名ヲ手記シ印ヲ押

シテ其遺囑證書ヲ公證人及ヒ證人ノ面前ニ出シ其證書ハ自己ノ遺囑證書タル旨ヲ公證人並ニ證人ノ面前ニテ

其證書又ハ其封紙ノ上ニ記シ其後公證人ハ自己ト證

人トノ面前ニテ遺囑者右ノ事ヲ記シタル旨ヲ更ニ其證

書ノ紙又ハ其封紙ノ上ニ記シ遺囑者公證人證人共ニ

其上ハ書ニ姓名ヲ手摺シ印ヲ押ス可シ

同第九百八十條

第九百十三條 (八百六十六條) 遺囑贈遺ノ證書ヲ記スル時其席ニ立會フ可キ證人ハ民權ヲ行フコトヲ得ヘキ日本人ニシテ丁年

ノ男ニ限ル可シ

同第九百八十條

第九百十四條 (八百六十七條) 軍人ハ軍中ニテ使用セラル、者ノ遺囑贈遺ノ證書ハ如何ナル國ニ於テ之ヲ記スルト雖モ大隊長

又ハ其他ノ上等士官證人二人ノ面前ニテ之ヲ公證ス可シ

同第九百八十條

第九百十五條 (八百六十八條) 若シ遺囑ノ贈遺ヲ爲ス者病ニ罹リ又ハ創傷ヲ被リテ兵病院ニアル時ハ其病院管理官ノ立會ニテ

軍醫其遺囑證書ヲ公證ス可シ

同第九百八十條

第九百十六條 (八百六十九條) 前二條ノ法則ハ日本領地外ニ發遣シタル兵隊中又ハ領地外ノ屯營及ヒ城寨中ニアル者ニ之ヲ適

用ス可ク日本領地内ノ屯營及ヒ城寨中ニアル者ニ付テ

ハ其所在ノ屯營及ヒ城寨敵兵ノ攻圍ヲ受ケ又ハ其所在ノ地戰鬪ノ爲メ内外ノ往來通セサル時ノ外此法則ヲ適

用ス可カラズ

同第九百八十條

第九百十七條 (八百七十條) 第九百十四條及ヒ第九百十五條ノ法則ニ循

ヒ記シタル遺囑贈遺ノ證書ハ其遺囑者通常ノ法則ニ循ヒ遺囑ノ贈遺ヲ爲スコトヲ得可キ地ニ歸來シタル日ヨ

同第九百八十條

リ滿六月ノ後ニ至リ其效ヲ失フ可シ
第九百七十八條 時疫及ヒ傳染病ノ爲メ外地ト全ク往來スルコトヲ得サル地ニ於テ記スル遺囑贈遺ノ證書ハ證人

二人ノ立會ニテ治安裁判官又ハ其邑ノ官吏一人之ヲ公證スルコトヲ得可シ

同第九百八十條

第九百七十九條 前條ノ法則ハ現ニ其病ニ罹リシ者又ハ現ニ其病ニ罹ラスト雖モ其病ノ傳染シタル地ニアル者ノ爲メ之ヲ通シ用フルコトヲ得ヘシ

同第九百八十條

第九百二十條 第九百十八條ニ記スル遺囑贈遺ノ證書ハ其遺囑者所在ノ地ノ外地ト往來ヲ爲スコトヲ得可キニ至リシ日ヨリ滿六月ノ後又ハ其遺囑者自由ニ往來ヲ爲スコトヲ得可キ地ニ移轉シタル日ヨリ滿六月ノ後ニ至リ其效ヲ失フ可シ

同第九百八十條

第九百二十一條 航海中ニ記スル遺囑贈遺ノ證書ハ之ヲ公認スル方法左ノ如シ

兵船又ハ其他ノ官船ニ於テハ其船ノ指揮官若シ指揮官アラサル時ハ其次官其船ノ庶務ヲ管理スル官吏又ハ之ニ代ル可キ者ト共ニ其遺囑贈遺ノ證書ヲ公證ス可シ

商船ニ於テハ其船ノ書記役又ハ之ニ代ル可キ者其船長

若シ船長アラサル時ハ之ニ代ル可キ者ト共ニ其遺囑贈遺ノ證書ヲ公證ス可シ

此條中ニ記シタル何レノ場合ニ於テモ證人二人ノ面前ニ於テ其遺囑贈遺ノ證書ヲ公證スルコトヲ必要トス

同第九百八十條

第九百二十二條 兵船又ハ其他ノ官船ノ指揮官及ヒ其船ノ庶務ヲ管理スル官吏ノ遺囑贈遺ノ證書又ハ商船ノ船長及ヒ其船ノ書記役ノ遺囑贈遺ノ證書ハ其次席ノ者之ヲ記ス可シ但シ其他ノ諸件ハ前條ノ法則ニ循フ可シ

同第九百九十條

第九百二十三條 前二條ノ遺囑贈遺ノ證書ハ之ヲ二通ニ記ス可シ

同第九百九十條

第九百二十四條 第九百二十一條及ヒ第九百二十二條ニ記セシ官船又ハ商船ノ日本領事ノ在留スル外國港ニ著スル時ハ其遺囑贈遺ノ證書ヲ公證セシ者其證書一通ニ封印ヲ爲シタル上ニテ之ヲ領事ニ渡シ領事ヨリ之ヲ外務省ニ送リ外務省ヨリ其遺囑者住所ノ地ノ治安裁判所ニ送リ其裁判所ノ書記局ニ之ヲ藏ス可シ

同第九百九十條

第九百二十五條 其船ノ日本ニ歸著シタル時ハ其遺囑贈

遺ノ證書二通ニ封印ヲ爲シ若シ又前條ニ記スル如ク航海中既ニ其一通ヲ領事ニ渡シタル時ハ他ノ一通ニ封印ヲ爲シタル上之ヲ其他ノ府縣廳ニ納メ其府縣廳ヨリ其遺囑者住所ノ地ノ治安裁判所ニ送リ其裁判所ノ書記局ニ之ヲ藏ス可シ

新タニ編入

第九百二十六條 遺囑者住所ノ地ノ治安裁判所ノ書記官

同第九百九十五條ハ削ル

ハ其遺囑ノ證書ヲ預リタル旨ヲ身分取扱役ニ報告シ其身分取扱役其遺囑者ノ死去ノ申述ヲ受ケタル時ハ之ヲ其治安裁判所ノ書記官ニ報告ス可シ

其治安裁判所ノ書記官ハ第九百三十八條ニ記シタル如ク初審裁判所長ノ面前ニ於テ其遺囑贈遺ノ證書ヲ開封ス可シ

同第九百九十七條

其治安裁判所ノ書記官ハ第九百三十八條ニ記シタル如ク初審裁判所長ノ面前ニ於テ其遺囑贈遺ノ證書ヲ開封ス可シ

同第九百九十三條

第九百二十七條 其船ノ乗組人姓名簿ノ中其遺囑者ノ姓名ヲ記シタル端ニ領事又ハ府縣廳ニ其遺囑贈遺ノ證書ヲ送リタル旨ヲ附記ス可シ

同第九百九十四條

第九百二十八條 航海中ト雖モ日本官吏ノ在留スル外國ノ領地又ハ日本ノ領地ニ着船シタル時遺囑贈遺ノ證書ヲ記スルニ於テハ其遺囑贈遺ノ證書ヲ海上ニテ記シタル

同第九百九十四條

第九百二十八條 航海中ト雖モ日本官吏ノ在留スル外國ノ領地又ハ日本ノ領地ニ着船シタル時遺囑贈遺ノ證書ヲ記スルニ於テハ其遺囑贈遺ノ證書ヲ海上ニテ記シタル

ルモノト看做ス可カラス此場合ニ於テハ日本官吏ノ面前ニ於テ通常ノ法式ニ循ヒ其遺囑贈遺ノ證書ヲ記セザレハ其效ナカル可シ

第九百二十九條 第九百二十一條ノ法則ヲ用ヒ海上ニテ記シタル遺囑贈遺ノ證書ハ其遺囑者海上ニテ死去シタル時又ハ通常ノ法則ヲ用ヒ之ヲ改メ記スルコトヲ得可キ地ニ上陸シタル日ヨリ六月内ニ死去シタル時ノ外其效ナカル可シ

第九百三十條 海上ニテ遺囑贈遺ノ證書ヲ記スル時ハ官船ノ士官又ハ商船ノ役員ノ爲メ贈遺ヲ爲ス可カラス但シ其士官又ハ役員ノ其贈遺者ノ親族タル時ハ此限ニ非ス

第九百三十一條 此款中ノ數條ニ記スル遺囑贈遺ノ證書ハ其遺囑者ト其證書ヲ公證シタル者ト其證人ト皆之ニ自署押印

其姓名ヲ手署シ印ヲ押ス可シ

若シ遺囑者又ハ證人其姓名ヲ手署スルコト能ハサル旨ヲ申述スル時ハ其申述スル所ト其手署スルコト能ハサル得サル原由トヲ附記ス可シ

同第九百九十五條

同第九百九十六條

同第九百九十七條

同第九百九十八條

同第九百九十九條

同第一千條

同第一千零一條

同第一千零二條

同第一千零三條

同第一千零四條

同第一千零五條

同第一千零六條

同第一千零七條

同第一千零八條

同第一千零九條

同第一千一十條

同第一千一十一條

同第一千一十二條

同第九百九十
九條

(八百八十五條)

外國ニ在ル日本人ハ此章ノ第一(款)ニ
記スル法則ニ循ヒ自筆ノ證書ヲ以テ遺囑ノ贈遺ヲ爲シ

又ハ同(款)ニ記スル法則ニ循ヒ日本領事館ノ書記官ノ

面前ニ於テ公正ノ證書又ハ秘密ノ證書ヲ以テ遺囑ノ贈

遺ヲ爲シ又ハ其外國ニテ用フル所ノ法則ニ循ヒ記シタ

ル公正ノ證書ヲ以テ遺囑ノ贈遺ヲ爲スコトヲ得可シ

第三(款) 遺囑贈遺ノ種類

同第一千條第
一(款)ハ前
ル第一千條第
二(款)ニ
同第九百三
十二條

(八百八十六條) 遺囑者ハ其遺留財産ノ全部ヲ贈遺ト爲

シ又ハ其遺留財産中ノ不特定ノ一部ヲ贈遺ト爲シ又ハ

其遺留財産中ノ特定ノ一部ヲ贈遺ト爲スコトヲ得可シ

第四(款) 遺留財産全部ノ遺囑ノ贈遺

同第一千三
條

(八百八十七條)

遺留財産全部ノ遺囑贈遺トハ遺囑者ノ

死去スル時其遺留スル財産ノ全部ヲ人ニ贈與スル遺囑

ノ贈遺ヲ云フ

同第一千四
條

(八百八十八條)

遺囑者死去ノ時法律上ニテ其貯留財産

ヲ得可キノ權アル相續人アルニ於テハ其相續人遺囑者

ノ死去ニ因リ其遺留財産ノ全部ヲ收受シ遺囑者ノ遺留

財産ノ全部ノ贈遺ヲ受クル者ハ其相續人ニ對シ遺囑贈

同第一千五
條

遺ノ財産ノ引渡ヲ得ント求ム可シ

(八百八十九條)

前條ノ場合ニ於テ遺留財産全部ノ遺囑

贈遺ヲ受クル者遺囑者ノ死去セシ日ヨリ一年内ニ相續

人ニ對シ其財産ノ引渡ヲ得ント求メタル時ハ遺囑者死

去ノ日ヨリ以來ノ其財産ノ利益ヲ所得ト爲スコトヲ得

可ク若シ然ラサレハ其引渡ヲ求メタル日又ハ其相續人

其財産ヲ其贈遺ヲ受クル者ニ引渡サント申述シタル日

ヨリ以來ノ利益ヲ所得ト爲スコトヲ得可シ

同第一千六
條

(八百九十七條)

法律上ニテ貯留財産ヲ得可キノ權アル

財産相續人アラサル時ハ公正ノ遺囑贈遺ノ證書ニ據リ

其遺留財産全部ノ贈遺ヲ受クル者遺囑者ノ死去ニ因リ

即時ニ其財産ヲ收受スルコトヲ得可ク別段其引渡ヲ求

ムルニ及ハス

同第一千七
條

(八百九十一條)

遺囑者自筆ノ遺囑贈遺ノ證書ハ其財産

相續ヲ爲ス地ヲ管轄スル初審裁判所ノ上席人ニ之ヲ差

出シ其贈遺ノ證書ニ封印アラハ其上席人ニ之ヲ開封ス可

シ

其上席人ハ其證書ヲ差出シタル事及ヒ之ヲ開封シタル

事ト其遺囑贈遺ノ大略トヲ記スル調書ヲ作り其別段擇ミタル公證人ニ其遺囑贈遺ノ證書ヲ預ク可キ旨ヲ言渡ス可シ

祕密ノ遺囑贈遺ノ證書ニ付テモ亦前二項ノ手續ヲ爲ス可シ但シ其開封ハ其證書ノ上ハ書ニ姓名ヲ手署シタル公證人ト證人トノ面前ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

同 第八條

第九百三十九條 (八百九十二條) 第九百三十七條ニ記シタル場合ニ於テ遺囑者自筆ノ遺囑贈遺ノ證書又ハ祕密ノ遺囑贈遺ノ證書ニ據リ其遺留財産全部ノ贈遺ヲ受クル者其財産ヲ收受スルニハ其遺囑贈遺ノ證書ヲ公證人ニ預ケタル旨ヲ記セシ書面ヲ添ヘテ其收受ヲ得ントスル願書ヲ初審裁判所ノ上席人ニ差出シ上席人ヨリ其允許ノ言渡ヲ得タル上ニテ其財産ヲ收受ス可シ

同 第九條

第九百四十條 (八百九十三條) 遺囑者ノ遺留財産全部ノ贈遺ヲ受クル者法律上ニテ貯留財産ヲ得可キ權アル財産相續人ト共ニ其遺留財産ヲ分ツ時ハ其所得ト爲シタル財産ノ割合ヲ以テ其遺留財産ニ屬スル負債ヲ擔任ス可シ

又遺留財産全部ノ贈遺ヲ受クル者其贈遺トシテ受ケタ

ル不動産ニ付書入質ノ權ヲ有スル債主ヨリ其負債ノ償却ヲ訟ヘラレタル時ハ其受贈者其負債ノ全部ヲ償却ス可シ但シ其受贈者ハ後ニ其貯留財産ヲ得可キ權アル財産相續人ニ對シ其擔任ス可キ負債ノ部分ノ償還ヲ得ント求ムルコトヲ得可シ

遺留財産全部ノ贈遺ヲ受クル者ハ他ノ遺囑ノ贈遺ヲ受クル者ニ其贈遺ノ財産ヲ渡ス可シ但シ遺囑ノ贈遺物ヲ減ス可キ場合ニ於テハ第八百五十七條ノ法則ニ循ヒ之ヲ減ス可シ

第五款(節) 遺留財産中不特定ノ一部ノ遺囑ノ贈遺

同 第十條

第九百四十一條 (八百九十四條) 遺留財産中不特定ノ一部ノ遺囑ノ贈遺トハ遺囑者特ニ其物件ヲ定ムルコトナリ其贈遺ト爲スコトヲ得可キ財産定分ノ一部又ハ其不動産ノ全部又ハ其動産ノ全部又ハ其不動産或ハ動産ノ一部ヲ人ニ贈與スル遺囑ノ贈遺ヲ云フ

同 第十一條

第九百四十二條 (八百九十五條) 遺囑者ノ遺留財産中ノ不特定ノ一部ヲ遺囑ノ贈遺トシテ受クル者ハ法律上ニテ貯留財産ヲ得可

キ權アル財産相續人ニ其遺囑贈遺ノ財産ノ引渡ヲ求ム可ク若シ其相續人アラサル時ハ其財産全部ノ遺囑ノ贈

遺ヲ受クル者ニ其遺囑贈遺ノ財産ノ引渡ヲ求ム可ク若シ其遺留財産全部ノ贈遺ヲ受クル者アラサル時ハ法律

上ニテ時留財産ヲ得可キ權ナキ財産相續人ニ其遺囑贈遺ノ財産ノ引渡ヲ求ム可シ

同第一千十二條
第一千十三條
ヲ合ス

第九百四十三條 遺留財産中不特定ノ一部ノ遺囑ノ贈遺

ヲ受クル者ハ其遺留財産全部ノ遺囑ノ贈遺ヲ受クル者ノ如ク其所得ト爲シタル財産ノ割合ヲ以テ其遺留財産

ニ屬スル負債ヲ擔任シ又其所得ト爲シタル不動産書入質ノ負債ハ其全部ヲ擔任ス可シ

又遺留財産中不特定ノ一部ノ贈遺ヲ受クル者ハ法律上ニテ時留財産ヲ得可キ權アル相續人ト共ニ其所得ト爲

シタル財産ノ割合ヲ以テ遺留財産中特定ノ一部ノ遺囑ノ贈遺ヲ受クル者ニ其遺囑贈遺ノ財産ヲ引渡ス可シ

斯クニ編入

第九百四十四條 第九百三十六條ニ記スル所ノ法則ハ遺留財産中不特定ノ一部ノ遺囑ノ贈遺ヲ受クル者ニモ亦

之ヲ通シ用フ可シ

明治十一年民法草案の一部

第六款 遺留財産中特定ノ一部ノ遺囑ノ贈遺

同第一千十條ノ二項

第九百四十五條 遺留財産中特定ノ一部ノ遺囑ノ贈遺ト

ハ遺囑者其贈遺ト爲ス財産ヲ特定メタル遺囑ノ贈遺ヲ云フ

同第一千十四條

第九百四十六條 遺留財産全部ノ遺囑ノ贈遺ト不特定ノ一部ノ遺囑ノ贈遺ト特定ノ一部ノ遺囑ノ贈遺トヲ問ハ

ス其遺囑ノ贈遺ヲ受クル者ハ遺囑者ノ死去セシ時ヨリ其遺囑贈遺ノ財産ヲ得ルノ權アリテ此權ハ贈遺ヲ受ク

ル者ノ財産相續人又ハ其代權人ニ之ヲ傳フ可シ但シ未必ノ條件ニ關セシムルノ約定ヲ以テ爲シタル遺囑ノ贈

遺ハ此限ニ非ス然レトモ遺留財産中特定ノ一部ノ遺囑ノ贈遺ヲ受クル者ハ第九百四十二條ニ記セシ各人ヨリ其贈遺ノ財産ノ

引渡※得タル後ニ非サレハ其贈遺ノ財産ヲ收受スルコトヲ得ス又其財産ヨリ生スル利益ヲ所得ト爲スコトヲ

同第一千十五條

第九百四十七條 左ノ場合ニ於テハ遺留財産特定ノ一部

ノ遺囑ノ贈遺ヲ受クル者遺囑者死去ノ時ヨリ其贈遺ノ財産ヨリ生スル利益ヲ所得ト爲スコトヲ得可シ

第一 遺囑者其遺囑ノ證書中ニ特ニ其旨ヲ明記シタル時

第二 畢生間ノ年金ヲ得可キノ權ヲ養料ノ爲メ遺

囑ノ贈遺ト爲シタル時

同第百二十六條
第二項第三
項ハ創ル

第九百四十八條 遺留財産全部ノ贈遺ト不特定ノ

一部ノ遺囑ノ贈遺ト特定ノ一部ノ遺囑ノ贈遺トヲ問ハス遺囑ノ贈遺ヲ受クル者其贈遺ノ財産ノ引渡ヲ認フルノ費用ハ遺留財産中ヨリ之ヲ出ス可シ然レトモ之カ爲

メ貯留財産ヲ減ス可カラズ

同第百二十七條
第二項ハ創ル

第九百四十九條 遺囑者ノ財産相續人又ハ遺留財産全部

ノ遺囑ノ贈遺ヲ受クル者又ハ遺留財産中不特定ノ一部ノ遺囑ノ贈遺ヲ受クル者ハ各其得タル財産ノ割合ヲ以テ遺留財産中特定ノ一部ノ遺囑贈遺ノ財産ヲ引渡スコトヲ擔任ス可シ

同第百二十八條

第九百五十條 特定ノ遺囑贈遺ノ財産ハ遺囑者ノ死去セ

シ時ノ景狀ノ儘其必要ナル附屬物ト共ニ之ヲ引渡ス可

シ

同第百二十九條

第九百五十一條 一箇ノ土地ヲ遺囑ノ贈遺ト爲ス者後ニ

其土地ノ方積ヲ増シタル時ハ其増シタル土地ノ以前ノ土地ト相接シタル時ト雖モ之ヲ其遺囑贈遺中ノ一部ナリト看做ス可カラズ但シ其増シタル土地ヲ以前ノ土地ニ圍ヒ入レ之ヲ其附屬地ト看做ス可キ時ハ此限ニ非ス又遺囑ノ贈遺ト爲シタル土地ニ作リタル裝飾物又ハ其土地ヲ良好ニナス爲メニ附加シタルモノハ其遺囑贈遺ト爲セシ土地中ノ一部ナリト看做ス可シ

同第百二十九條

第九百五十二條 若シ遺囑者一箇ノ不動産ヲ遺囑ノ贈遺

ト爲ス前又ハ其後ニ其不動産ヲ書入質ト爲シタル時又ハ其不動産ノ入額所得ノ權ヲ人ニ移シタル時ハ後ニ其不動産ヲ其贈遺ヲ受クル者ニ引渡ス可キ財産相續人又ハ其他ノ者其不動産ノ書入質ノ義務ヲ滌除スルニ及ハス又其入額所得ノ權ヲ取戻スニ及ハス其儘之ヲ引渡スコトヲ得可シ但シ遺囑者其遺囑贈遺ノ證書ニ其不動産書入質ノ義務ヲ滌除シ又ハ其入額所得ノ權ヲ取戻シテ其不動産ヲ引渡ス可キ旨ヲ特ニ明記シタル時ハ此限ニ

非ス

同第千二十一
第九百五十三條 (九百六條)
若シ遺囑者他人ニ屬スル財産ヲ贈遺ト
爲シタル時ハ其遺囑者其財産ノ己レニ屬セサルヲ知リ

タルト否トヲ問ハス其贈遺ノ效ナカル可シ

同第千二十二
第九百五十四條 (九百七條)
遺囑者其贈遺ト爲ス財産ノ種類ヲ定メ

特ニ其物ヲ指定セサル時ハ其財産相續人其遺囑ノ贈遺

ヲ受クル者ニ最モ良好ノ物ヲ渡スニ及ハス又最モ粗惡

ノ物ヲ渡ス可カラス

同第千二十三
第九百五十五條 (九百八條)
債主ニ爲シタル遺囑ノ贈遺ハ負債ノ償

ナリト看做ス可カラス

同第千二十四
第九百五十六條 (九百九條)
遺留財産中ニテ特定ノ一部ノ遺囑ノ贈

遺ヲ受クル者其遺留財産ニ付テノ負債ヲ擔任スルニ及

ハサルハ第八百四條ニ記スル所ノ如クタル可シ

第七條^節 遺囑者ノ托ヲ受ケ遺囑ノ贈遺ヲ執

行スル者

同第千二十五
第九百五十七條 (九百十條)
遺囑者ハ其遺囑ノ贈遺ヲ執行スル者一

人又ハ數人ヲ任スルコトヲ得可シ

同第千二十六
第九百五十八條 (九百十一條)
遺囑者ハ其遺囑ノ贈遺ヲ執行スル者ニ

自己ノ動産ノ全部又ハ一部ヲ附托スルコトヲ得可シ然

レトモ其附托ハ其遺囑者ノ死去セシ時ヨリ滿一年ノ時

間ニ過ク可カラス

遺囑ノ贈遺ヲ執行スル者動産ノ附托ヲ受ケサル時ハ之

ヲ受ケント訟フルコトヲ得ス

同第千二十七
第九百五十九條 (九百十二條)
財産相續人動産ノ遺囑贈遺ヲ受クル者

ニ之ヲ渡ス可キコトヲ保證スルニ足ル可キ金額ヲ其遺

囑贈遺ノ執行者ニ渡サント申述スル時又ハ既ニ其贈遺

ノ動産ヲ其受贈者ニ渡シタルコトヲ證スル時ハ其財産

相續人其遺囑贈遺ノ執行者ノ管テ遺囑者ヨリ附托ヲ受

ケタル動産ヲ己レニ取戻スコトヲ得可シ

同第千二十八
第九百六十條 (九百十三條)
契約ヲ爲ス可キノ能力アラサル者ハ遺囑

贈遺ノ執行者トナルコトヲ得ス

同第千二十九
第九百六十一條 (九百十四條)
婚姻シタル婦ハ其夫ノ許諾ヲ得又ハ裁

判所ノ允許ヲ得タル時ハ遺囑贈遺ノ執行者トナルコト

ヲ得可シ

同第千三十條
第九百六十二條 (九百十五條)
遺囑贈遺ノ執行者ハ左ノ諸件ヲ爲ス可

シ

同第千三十一

第一 財産相續人中ニ幼者又ハ治産ノ禁ヲ受ケタル者又ハ失踪者アル時ハ遺留財産ニ封印ヲ爲サシムル事

第二 財産相續人ノ面前ニテ遺留財産ノ目錄ヲ記セ

シムル事

第三 遺囑ノ贈遺物ヲ渡スニ足ル可キ金額ノアラサル時動産ヲ賣拂ハシムル事

第四 遺囑贈遺ノ執行ヲ監察シ且其執行ニ付キ詞訟ノ生スル時ハ其詞訟ニ管涉シテ遺囑贈遺ノ效ヲ保全スル事

第五 遺囑者ノ死去ノ時ヨリ滿一年ノ後ニ至リ其行

フタル諸事ノ計算ヲ爲ス事

ニ傳フルコトヲ得ス

同第千三十二 (九百十六條) 第九百六十三條 遺囑贈遺ノ執行者ノ權ハ其財産相續人

ニ傳フルコトヲ得ス

同第千三十三 (九百十七條) 第九百六十四條 遺囑贈遺ノ執行者數人アル時ハ其附托

ヲ受ケシ動産ノ用方ニ付キ共ニ連帶シテ其責ニ任ス可

シ但シ遺囑者其遺囑贈遺ノ執行者數人ノ職分ヲ分チテ

其各人自己ノ任セラレシ職務ノミヲ行フタル時ハ此限

遺ヲ取消ス可シ

遺ヲ取消ス可シ

同第千三十四

第九百六十五條 (九百十八條) 遺囑贈遺ノ執行者遺留財産ニ封印ヲ爲シテ其目錄ヲ記スルノ費用其行フタル諸事ノ計算ヲ爲スノ費用及ヒ其他遺囑贈遺執行ノ職務ヲ爲スニ付テノ費用ハ遺留財産中ヨリ之ヲ出ス可シ

第八款 遺囑贈遺ヲ取消ス事及ヒ遺囑贈遺

ノ效ヲ生セサル事

同第千三十五

第九百六十六條 (九百十九條) 凡ソ遺囑贈遺ノ證書ハ其後ニ記シタル遺囑贈遺ノ證書ニ因リ又ハ遺囑者其意ヲ變更セシコトヲ記シタル公正ノ證書ニ因リ之ヲ取消スコトヲ得可シ

同第千三十六

第九百六十七條 (九百二十條) 後ニ記シタル遺囑贈遺ノ證書ニ前ニ記シタル遺囑贈遺ノ證書ヲ取消スコトヲ別段記セサル時

同第千三十七

第九百六十八條 (九百二十一條) 後ノ遺囑贈遺ニ據リテ贈遺ヲ受クル者ノ之ヲ受ケルコト能ハス又ハ其贈遺ヲ受クル者ノ之ヲ受ルコトヲ肯セサルニ因リ其遺囑贈遺ノ效ナキ時ト雖モ前ノ遺囑贈遺ヲ取消ス可シ

同第千三十七

第九百六十八條 (九百二十一條) 後ノ遺囑贈遺ニ據リテ贈遺ヲ受クル者ノ之ヲ受ケルコト能ハス又ハ其贈遺ヲ受クル者ノ之ヲ受ルコトヲ肯セサルニ因リ其遺囑贈遺ノ效ナキ時ト雖モ前ノ遺囑贈遺ヲ取消ス可シ

同第千三十七

第九百六十八條 (九百二十一條) 後ノ遺囑贈遺ニ據リテ贈遺ヲ受クル者ノ之ヲ受ケルコト能ハス又ハ其贈遺ヲ受クル者ノ之ヲ受ルコトヲ肯セサルニ因リ其遺囑贈遺ノ效ナキ時ト雖モ前ノ遺囑贈遺ヲ取消ス可シ

第九百二十九條 遺囑者其遺囑ノ贈遺ト爲シタル財産ヲ人ニ賣リタル時ハ縱令其賣渡ノ時後ニ之ヲ買戻ス可キノ約定ヲ爲シタルト雖モ其賣渡シタル財産ニ付テハ其遺囑ノ贈遺ヲ取消ス可シ但シ其賣買ノ契約ノ效ヲ失フテ其贈遺者其賣渡シタル財産ヲ已レニ取戻シタル時モ亦同一ナリトス

第九百三十條 凡ソ遺囑ノ贈遺ハ其贈遺ヲ受クル者ノ遺囑者ヨリ前ニ死去シタル時ハ其效ヲ生ス可カラズ

第九百三十一條 凡ソ未必ノ條件ニ關ス可キ旨ヲ定メテ遺囑ノ贈遺ヲ爲シタル時ハ其受贈者縱令其遺囑者ヨリ後ニ生存スト雖モ未タ其未必ノ條件ノ生セサル前ニ死去シタルニ於テハ其遺囑贈遺ノ效ヲ生ス可カラズ

第九百三十二條 若シ亦後ニ必ス生ス可キ將來ノ條件ニ關スル旨ヲ定メテ遺囑ノ贈遺ヲ爲シタル時ハ其受贈者其遺囑者ノ死去ニ因リ直チニ其贈遺ノ財産ヲ所得ト爲ス可キノ權ヲ得縱令其將來ノ條件ノ未タ生セサル前ニ死去スルト雖モ贈遺ノ財産ヲ所得ト爲ス可キノ權ヲ自己ノ財産相續人ニ傳フルコトヲ得可シ

第九百三十三條 遺囑ノ贈遺ト爲シタル財産其遺囑者ノ生存中ニ全ク滅盡シタル時ハ其贈遺ノ效ヲ生セシム可カラズ

又遺囑贈遺ノ財産ヲ其受贈者ニ渡ス可キ財産相續人ノ之ヲ渡スコトヲ遅延セシ時ト雖モ其財産相續人ノ所爲及ヒ過失ニ非スシテ其贈遺ノ財産ノ滅盡シタル時ハ前項ニ同シク其遺囑贈遺ノ效ヲ生セシム可カラズ但シ其財産相續人縱令既ニ其受贈者ニ其財産ヲ引渡シタルト雖モ亦其財産ノ滅盡シタル可キノ證ヲ立ル能ハサル時ハ其財産相續人ヨリ其受贈者ニ其損害ノ償ヲ爲ス可シ

第九百三十四條 遺囑ノ贈遺ヲ受ク可キ者ノ之ヲ受クルコトヲ肯セス又ハ之ヲ受クルコト能ハサル時ハ其贈遺ノ效ヲ生セシム可カラズ

第九百三十五條 數人ニ相合シテ遺囑ノ贈遺ヲ爲シタル時若シ其受贈者中ノ一人ニ付キ其遺囑贈遺ノ效ヲ生セサルニ於テハ其他ノ受贈者其一人ノ部分ヲ已レノ部分ニ加ヘテ所得ト爲スコトヲ得可シ

同第九百七十九條 (九百二十九條) 第八百八十六條ト第八百八十七條ノ第
條第六節ル

同第九百七十九條 (九百二十九條) 第八百八十六條ト第八百八十七條ノ第
條第六節ル

可シ

同第九百七十九條 (九百二十九條) 第八百八十六條ト第八百八十七條ノ第
條第六節ル

後ノ榮譽ニ至重ノ害ヲ加ヘタル時ハ其財産相續人其遺
囑ノ贈遺ヲ取消サント認フルコトヲ得可シ但シ其訟ハ
其犯罪ノ時ヨリ一年内ニ之ヲ爲ス可シ

第六章

生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ヲ其子ニ

爲ス者ノ其孫ノ利益ノ爲メナシ得可キ

約定及ヒ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺

ヲ其兄弟姉妹ニ爲ス者ノ其甥姪ノ利益

ノ爲メニナシ得可キ約定

父母ハ其隨意ニ贈遺ト爲スヲ得可キ財

産ノ定分ヲ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ヲ以テ其子ニ

與ヘ後ニ其贈遺ヲ受ケシ子ノ死去スル時其子ノ生ミタ

ル子ニ傳フ可キノ約定ヲ爲スコトヲ得可シ

同第九百七十九條 (九百三十二條) 子ナキ者ハ其隨意ニ贈遺ト爲スヲ得可

同第九百五十五條

第九百八十條 前二條ニ記シタル贈遺ハ年齢及ヒ男女

ノ別ナク其贈遺ヲ受ケシ子ノ生ミタル子及ヒ其生ム
コトアル可キ子ニ其贈遺ノ財産ヲ傳フ可キコトヲ定
ムルニ非サレハ其效ナカル可シ

同第九百五十五條
第六節ノニ條
合ス

第九百八十一條 前二條ニ記シタル贈遺ヲ爲ス者ハ

其贈遺ノ證書又ハ其後ニ記シタル公正ノ證書ヲ以テ
其贈遺ノ執行ヲ監察スル管照者ヲ任ス可ク若シ其贈
遺ヲ爲ス者其管照者ヲ任セサル時ハ其受贈者其贈遺
者死去ノ時ヨリ一月内ニ親類會議ヲ爲サシメ其親族
會議ニ於テ其管照者ヲ任ス可シ

同第九百五十五條
第六節ノニ條
合ス

第九百八十二條 前二條ニ記セシ贈遺ヲ爲シタル者ノ

死去シタル時ハ定例ノ法式ヲ以テ其遺留財産ノ目錄ヲ

記ス可シ

其目錄ヲ記スルノ手續ハ贈遺ヲ受ケタル者之ヲ爲ス可

ク若シ其贈遺ヲ受ケタル者之ヲ爲サ、ル時ハ其管照

者之ヲ爲ス可シ

同第六十二條

(九百三十四條) 前數條ニ記セシ贈遺ヲ受ケタル者ハ其

贈遺ノ財産中ノ動産ヲ定例ノ手續ヲ爲シテ變賣ニ爲ス

可シ

同第六十五條

(九百三十五條) 前數條ニ記セシ贈遺ヲ受ケタル者ハ財

産目錄ヲ記シタル時ヨリ六月内ニ 管照者ノ立合ニテ

其贈遺中ノ金額又ハ動産ノ變賣ニ因リ得タル金額ヲ

利益トナル可キ方法ニ用フ可シ

同第六十七條

(九百三十六條) 贈遺ヲ爲ス者前條ニ記スル所ノ金額ヲ

用フ可キ方法ヲ定メ置キタル時ハ其方法ニ循テ之ヲ用

フ可ク若シ贈遺ヲ爲シタル者ノ其方法ヲ定メ置カサル

時ハ不動産買入ノ爲メニ其金額ヲ用ヒ又ハ人ニ其金額

ヲ貸シ其抵當トシテ不動産書入質ノ權利ヲ得可シ

同第六十九條

(九百三十七條) 前數條ニ記スル定メヲ以テ不動産ヲ贈

遺ト爲シタル時ハ其贈遺ノ證書ヲ書入質官署ノ簿冊ニ

明治十一年民法草案の一部

登記ス可シ

又贈遺ト爲シタル金額又ハ贈遺ノ動産ヲ變賣ニ爲シテ

得タル金額ヲ以テ不動産ヲ買入レタル時又ハ其金額ヲ

貸シ其抵當トシテ不動産書入質ノ權利ヲ得タル時ハ其不

動産買入ノ契約書又ハ其不動産書入質ノ契約書ヲ書入

質官署ノ簿冊ニ登記ス可シ

此條ニ記スル所ノ登記ノ手續ハ贈遺ヲ受ケシ者 又ハ

其管照者之ヲ爲ス可シ

同第七十三條

(九百三十八條) 若シ贈遺ヲ受ケシ者 又ハ其ノ管照者

前數條ニ記スル所ノ職務ヲ行ハサル時ハ 各々 其實ニ

任ス可シ

第七章 父母又ハ尊屬親其財産ヲ其子又ハ卑

屬親ニ分派スル事

第九百八十八條 父母又ハ尊屬親ハ其子又ハ卑屬親ニ

其財産ノ分派ヲ爲ス事ヲ得可シ

第九百八十九條 父母又ハ尊屬親ノ爲ス所ノ分派ハ生

存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ノ爲メ定メタル法則ニ循

ヒ生存中ノ證書又ハ遺囑ノ證書ヲ以テ之ヲ爲スコト

同第七十六條

ヲ得可シ

生存中ノ證書ヲ以テ爲シタル分派ハ現在ノ財産ノミ
ニ限ル可シ

同千七十七條

第九百九十條 若シ尊屬親ノ死去シタル時其遺留財産
中ニ嘗テ其分派中ニ入ラサル物件アルニ於テハ其物
件ヲ法律ニ循テ分派ス可シ

同千七十八條

第九百九十一條 若シ尊屬親ノ死去シタル時生存スル
子ト既ニ死去セシ子ノ卑屬親トノ全員ニ其財産分派
ヲ爲サ、ル時ハ其分派ノ效ナカル可シ

此場合ニ於テハ財産ノ分派ヲ得サル子及ヒ卑屬親ハ
言ヲ待タス其分派ヲ得タル子及ヒ卑屬親ト雖モ法律
ニ循ヒ更ニ改メテ分派ヲ爲サント訟フルコトヲ得可
シ

同千七十九條

第九百九十二條 尊屬親ノ爲シタル分派ニ付キ若シ其
子及ヒ卑屬親中ニ法律上ニテ其當然得可キ部分ノ四
分一以上損失ヲ受クル者アル時ハ其損失ヲ受クル子
及ヒ卑屬親其分派ヲ取消サント訟フルコトヲ得可シ

同千八十條

第九百九十三條 前條ニ記スル理由ニ因リ尊屬親ノ爲
シタル分派ヲ取消サント訟フル子及ヒ卑屬親ハ其財
産評價ノ費用ヲ預メ出シ置キ若シ其子及ヒ卑屬親ノ

敗認ニ至リシ時ハ其評價ノ費用ト訴訟ノ費用トヲ擔
任ス可シ